

サミット宣言

永年におたり「日本文化」の中心的な役割を果たしてきた「きもの文化」は、今日史上最大級の危機に直面している。

この「きもの文化」を次世代に継承し、これからの「きもの産業」の発展を図るには「産地」「流通」が一丸となり、消費者ニーズにマッチした和装産業の再構築を行う必要がある。

このような状況下だからこそ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、きもの文化を広く世界にアピールするとともに、「きものユネスコ無形文化遺産」登録を目指し、『サミット宣言』を発信する。

1. 「きもの」のユネスコ無形文化遺産登録に向けて

長い歴史と伝統を有する「きもの」は、日本人の心の拠り所であり、世界に誇り得る「文化・産業」である。このかけがえのない至宝であるきものを次世代に継承・発展させるため、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す。

このため、きもの産業・文化の源泉である伝統的「技術」「技法」を伝承し、きもの文化の「品位・品格」を高めてきた業界団体や流通業界等が核となり、関係行政機関の指導のもと、推進体制を組織し運動を展開する。

2. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて

きもの文化を広く世界にアピールするため、東京オリンピック・パラリンピックにおける公式行事や歓迎行事等において、きもの着用の機会創出が図られるよう、関係機関へ働きかける。あわせて、国民一人ひとりが、きもの着用に対する認識を深めるための機運醸成を図る。

また、同大会にあわせて日本全国で展開される文化プログラムにおいて、きもの文化を核として、新たなデザインやスタイルの提案を行うとともに、先端技術や異分野などとの革新・融合を創出させる。

平成26年11月10日

きものサミット IN 東京開催委員会